

てらさきこうぎょうひつしょうしょうはっけい
寺崎廣業筆瀟湘八景

1 種 別	有形文化財（絵画）
2 名称及び員数	寺崎廣業筆瀟湘八景 8幅
3 所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62番地46 秋田県立近代美術館
4 所有者	秋田県
5 制作年	大正元年(1912)
6 材質・形状	紙本著色、軸装
7 寸法	各縦52.1cm、横86.8cm
8 説明	

本作品は、明治後期から大正前期にかけ、近代日本画壇の重鎮として一時代を築いた寺崎廣業が、46歳のとき、伝統的な画題である瀟湘八景を描いた山水画である。

慶応2年(1866)、久保田城下東根小屋町（現秋田市中通）の武家に生まれた廣業は、幼少時より類いまれな画才を示し、10代で画家を志した。22歳で上京し、多種多様な古画の研究と模写等で様々な流派の画法を身に付けながら、24歳のとき第三回内国勸業博覧会で褒状を得て本格的に画壇に認められた。30歳で東京美術学校（東京芸術大学の前身）に勤め、後に日本画科主任にも任命された。41歳で文部省主催美術展覧会（文展）審査員、51歳で皇室技芸員など、国家の美術振興の要職を歴任する傍ら後進育成に努めるも、大正8年(1919)、53歳で病没した。

定型としての瀟湘八景は、中国内陸部の湖南省を流れる瀟水と湘江が合流し、洞庭湖に注ぐ地域一帯を題材とする。夕暮れ時を中心に、微弱な光や不透明な大気が覆う8つの風趣ある景色が設定され、ほとんどが水墨で描かれる。廣業による瀟湘八景は、一般的な白黒の表現ではなく抑制された柔らかい彩色が施され、日本画の特色である輪郭線や細かい描線を生かした作品となっている。細部までの緻密な描写をはじめ、描く題材により、刷毛の使用や下地の白を効果的に生かすなど、それぞれに趣向を凝らしている。同時に、手前は濃く鮮明に、奥は薄く霞ませる均衡が絶妙であり、見る者の視界が広がる伸びやかな空間を獲得している。廣業は、明治43年(1910)に中国を訪問しており、その際目にした景色の写生や記憶といった要素も反映させている。

本作品は、従来のも水墨画を中心とする瀟湘八景とは趣を異にする、様々な技法で彩られた山水画に仕上がっている。晩年に描かれた幾多の作品につながる画期として重要であり、廣業による日本画法の妙技を示した山水画の代表作である。

参考

秋田県指定有形文化財（絵画） 「寺崎廣業筆高山清秋」 平成20年(2008)3月21日指定

参考文献

秋田県立近代美術館 『生誕一四〇年 寺崎廣業展』 平成18年(2006)10月

秋田市立千秋美術館 『生誕150年記念 寺崎廣業展』 平成28年(2016)

村松梢風 『本朝画人傳 卷四』 中央公論社 昭和17年(1942)

山本文志 「寺崎廣業 瀟湘八景」 『國華』第1400号 朝日新聞出版 平成24年(2012)6月



さん し せいらん
山市晴嵐



えん ぽ きほん
遠浦帰帆



どうていしゅうげつ
洞庭秋月



えん じ ぼんしやう
煙寺晩鐘



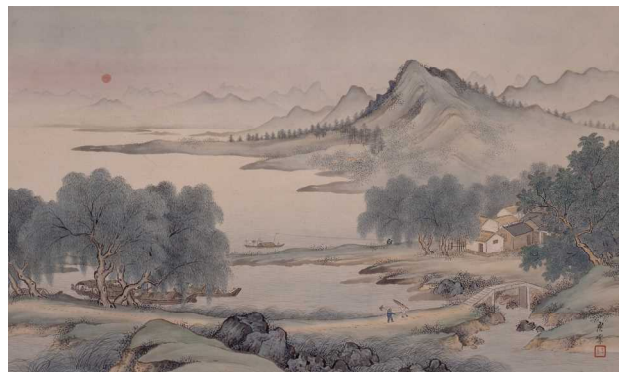
へい さらくがん
平沙落雁



しやうしやう や う
瀟湘夜雨



かうてん ぼ せつ
江天暮雪



ぎよそんらくしやう
漁邨落照

寺崎廣業筆瀟湘八景（秋田県立近代美術館所蔵）